

和歌山県田辺市で 16 回連続して鳴いたクマゼミ (カメムシ目 = 半翅目, セミ科)
Continuous 16 times droning of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) in Tanabe city,
Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

日本最大種で、南日本に広く分布するクマゼミ *Cryptotympana facialis* (カメムシ目 = 半翅目, セミ科) は、南紀地方でも夏季に出現する普通種のセミである (久保田・田名瀬, 1999, 2002 参照)。今回、和歌山県西牟婁郡田辺市の新庄公園の遊歩道の途中 (南紀の台南側入り口から東屋にぬける) に生育する 1 本の樹木で (カバノキ科コナラ: 樹高は約 4 m で、最大の枝ぶり幅が約 5 m)、1 個体が 16 回も途切れることなく連続して鳴いた珍しい記録を報告する。

鳴き始めた時刻は、2010 年 8 月 3 日の午前 7 時頃で、人通りもまったくなく、鳴き終わるまでの数十分間ずっと追跡できた。既に太陽は少し昇り、日光は斜めに樹木にさしこんでいた。コナラの高さ 2m ほどに伸びている直径 10 cm ほどの枝に、この 1 個体の雄のクマゼミが、鳴き始めたので歩行を止め、クマゼミから 6m ほど離れた場所から立ったまま静かに観察していると、「シャワシャワシャワ・・・」という特徴的な鳴き声を勢よく発した後に続く「ジージージー・・・」という低い音で鳴き終わらず、この一連の繰り返しを、16 回もまったくとぎれることなく実行した。本個体が連続して鳴く間、その位置をわずか数十 cm ほど移動した程度で、最終的には元の位置に戻った。鳴き止んだ後は飛び去った。

これまで多数個体のクマゼミの鳴き声を日本各地で聞いてきたが、これほどの連続回数での鳴き方には初めて遭遇した。今回の遭遇の後に、何度もこの場所を訪れているが、ここは 1 本の本で多数個体が鳴くセミしぐれ (大合唱) となる場所でないので、たとえば多くの競合者がいないなどの理由で、今回のような特殊な現象が可能となったのかもしれない。あるいは、本個体が特別に“息の長い個体”だったのかもしれない。しかし、雌が飛んできて、この雄と交尾することはなかった。

この個体がずっと鳴き続けた間に、同じ樹木の別の枝に他のクマゼミの雄が計 2 個体別々に飛んできて、本個体と同時に鳴いたが、それらはわずかに 2 回と 1 回鳴いたのみで、その後すぐに飛び去った。また、隣に生育する樹木にも雄のクマゼミが 1 個体飛んできて鳴いたが、この個体もたった 1 回鳴いた後にすぐに飛び去った。これら 5 個体の鳴き方に差はなかった。

謝 辞

樹木の同定をしてくださった梅本信也博士 (京都大学フィールド科学教育研究センター) に深謝いたします。

引用文献

- 久保田 信・田名瀬英朋. 1999. クマゼミの遅鳴きの最近の記録. 南紀生物, 41 (1) : 64.
久保田 信・田名瀬英朋. 2002. 和歌山県白浜町の海岸付近におけるクマゼミの初鳴き. 南紀生物, 44 (2) : 114.